

科目名	美術特論			科目コード	1004
開講学科	美術学科	単位数	4（計）	形態	講義
教員名	木村 太郎				
授業の目的及びテーマ：					
ルネサンスという現象を、美術作品との関係から考察し、さらに当時の社会構造の動きのなかで読み解く。					
授業概要					
ルネサンスが、15 世紀のイタリアを舞台に、神や教会を中心とする中世の考え方から脱し古代ギリシア・ローマ世界の秩序を規範として古典復興を目指した一大ムーブメントであることはよく知られています。しかし、こうした中世的な世界観からの脱却や古代文化の復興はどのような理由で生じたのでしょうか？この授業では、ルネサンスという現象の歴史的・社会的な構造を、美術作品とともに考察します。					
授業計画：					
教科書として用いる『ルネサンスー歴史と芸術の物語』は6章で構成されています。 第1章「十字軍と金融」では、ルネサンスが花開く土壌となった11～13世紀頃のイタリアにおける経済活動の発展と、それにもなう社会構造の変化を見ます。 第2章「古代ローマの理想化」では、そうした社会構造の変化が、なぜ古代ギリシア・ローマの文化の復興へとつながっていったのかを確認します。該当する時代は14世紀頃で、これは一般に「プロト・ルネサンス期」と呼ばれる時代にあたります。 第3章「もう一つの古代」では、十字軍の遠征をきっかけとして古代ギリシア文化が西ヨーロッパに逆輸入されていく様相を眺めます。該当する時代は第2章と同じく「プロト・ルネサンス期」です。 第4章「ルネサンス美術の本質」では、15世紀前半の絵画を中心に、ルネサンス美術の特徴がいかなるものであるのかを探ります。 第5章「ルネサンスの終焉」では、ルネサンスの時代がなぜ終わりを迎えたのかを、15世紀半～16世紀初頭にかけての社会構造の変化などとともに考えます。 第6章「ルネサンスの美術家三十選」は附録的なもので、ルネサンスの時代に美術の分野で活躍した30人の人物のプロフィールを簡単に紹介します。					
テキスト	「ルネサンスー歴史と芸術の物語」 池上英洋 著（光文社新書）	参考文献：			
評価方法：					
通信授業は提出課題{2件}を以って評価する。 面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					